

時代の潮流、中部圏の強みと特徴的な課題・弱み

時代の潮流(全国的)	中部圏	
	強み	特徴的な課題・弱み
<p>●急激な人口減少・少子化</p> <p>●異次元の高齢化の進展</p>	<p>■ゆとりある生活環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋圏(東海3県)合計特殊出生率1.47(全国1.43、東京圏1.28、大阪圏1.33) ・三世代世帯同居率10%(首都圏5.2%、近畿圏5.2%) ・一人あたり居住室の量数14.4畳(首都圏12.6畳、近畿圏13.3畳) ・職住近接性 平均通勤時間 中京大都市圏28分(関東大都市圏45分、近畿大都市圏35分) ・都市と中山間地・自然との近接性 <p>■製造業が盛んな地域で人口増(推計)</p> <p>【西三河地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出生率も比較的高く ・将来人口増加若しくは現状維持程度の地域が広く分布 	<p>■広範囲な地域における活力低下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口半減以上のエリア約5割(全国6割:2050/2010) ・2050高齢化率 名古屋圏36%(全国39%、東京圏39%、大阪圏39%、地方圏40%) ・地域を支える農林水産業や地場産業 ・豊富な地域資源の活用、観光交流 <p>■ものづくりを支える働き手・担い手、人材確保</p> <p>■ものづくり技術の伝承懸念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産労働人口2040年約3割減 <p>■低い女性雇用割合(製造業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県25%(全国30%・東京都31%・大阪府30%) <p>■相対的に低い第3次産業割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総生産額ベース(全国シェア) 東海3県9.4%(東京圏36%、大阪圏14%) ・3次産業就業者数構成比63%(首都圏75%、近畿圏72%) <p>■相対的に低い中核都市名古屋の魅力・個性</p> <p>■女性の首都圏への転出増加</p> <p>【中部圏→首都圏転出入者差】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1999) 女性▲4,500人、男性▲3,300人 ・(2013) 女性▲9,100人、男性▲6,300人
<p>●グローバル化の進展</p>	<p>■卓越したものづくり産業集積</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集積力、技術力、人材力 ・中部の戦略産業自動車産業(全国シェア57%)・航空機産業(同65%)・ヘルスケア産業・環境産業 ・FCV、MRJ ・ロボット技術 <p>■ノーベル賞6名輩出など大学・民間の高度な研究力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋大学+豊田合成(株) LED研究開発 ・名古屋大学+東レ(株) ナノテクノロジー(超微細技術)によるカーボンナノチューブ <p>■ものづくり・物流を支えるインフラ整備の進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋港貿易黒字の日本一の移ぎ頭(全国最大6兆円) ・名古屋港飛島ふ頭、日本唯一の完全IT自動化コンテナターミナル ・名古屋都市高速概成、東海環状自動車道東回り完成(産業立地に貢献) ・東西軸の複軸化(東名名神・新東名名神)の進捗 <p>■全国でも有数な農業先進地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部圏農業産出額シェア11%(愛知県全国6位) ・花卉作付け面積シェア21%(愛知県全国1位) <p>■都市の集積度合い(過密なき集積)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相対的な地価水準の低さ 	<p>■グローバル産業を支える中堅・中小企業の疲弊</p> <p>■大学や企業、研究機関等連携による革新的イノベーションの継続的創出が不可欠</p> <p>(産学連携の実施状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究・受託研究実績 大学受入額全国シェア 中部圏9.0% <p>■ものづくり・物流を支えるインフラネットワークは発展途上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西軸に比して遅れる南北軸、環状軸(東海環状自動車道開通率5割(開通見込し区間率15%)) ・慢性化する交通渋滞(主要渋滞箇所1,400ヶ所) ・物流拠点(空港・港湾)と高速道路の直結性 ・名古屋港船舶大型化対応、中部国際空港滑走路一本 <p>■将来を見据えた総合的な土地利用が不可欠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済の安定成長、並びに農業振興など地域経営の観点からの総合的な土地利用 <p>■中部・北陸圏の連携が不可欠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸圏の成長分野「ライフサイエンス産業」「高機能新素材産業」と、中部のものづくり産業との連携による新たな付加価値創造 ・ユーラシアダイナミズムへの対応 ・環日本海、環太平洋の両方向に拓かれた圏域形成
<p>●スーパーメガーレージョン誕生(2027リニア名古屋開通、2045全線開通)</p>	<p>■地勢的優位性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のまんなか、交通結節点 ・スーパーメガーレージョンのセンター <p>■多極分散型地域構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進都市名古屋を核に産業都市、歴史文化・技術を醸し出す都市など多様で個性があるまちが広く分布 	<p>■リニア駅を核にリニア効果を最大限活かす地域整備が不可欠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名古屋(名古屋駅)、東濃・中津川(岐阜県)、伊那谷・飯田(長野県) <p>■リニアと他の交通モード(道路、鉄道、空港、港湾等)とのアクセス強化が不可欠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅(名古屋駅、岐阜県、長野県)と高速道路の直結 ・名古屋駅における在来線(名鉄、近鉄、JR、地下鉄)との接続利便性 ・在来線のネットワーク強化(名鉄三河線、JR飯田線、JR中央線→愛環鉄道等) ・中部国際空港とのシームレスな移動環境
<p>●国際観光交流の拡大(大交流時代の到来)(2020東京オリ・パラ契機とした目標2,000万人)</p>	<p>■豊富で多様な自然環境・景観、歴史文化遺産等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3000m級山岳～森林～中山間地・里山～都市～海洋 ・土着的ともい歴史文化遺産(伊勢、熊野、高山、白川郷、宿場町、街道、町並みなど) ・山海資源や醸造技術活用による独特な食文化、海女や忍者など地域特有の文化 <p>■昇龍道プロジェクトの始動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部9県訪日外国人宿泊者数(2010) 180万人→(2013) 340万人 	<p>■国際性は発展途上(低い知名度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールドenルートに属する訪日外国人旅行者 ・訪日外国人宿泊者数シェア8%(首都圏44%、近畿圏21%) ・中部国際空港利用外国人シェア5%(成田・羽田54%、関空22%) ・国際会議開催件数(2011) 名古屋112回(東京470回、大阪72回) ・国際イベントやアミューズメントの楽しみが少ない ・外資系企業立地件数シェア2.2%(首都圏89%、近畿圏6.9%) <p>■豊富な観光資源を生かし切れていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PR不足、観光地間の連携不足(つながっていない) ・広域的な面として活用不足
<p>●巨大災害の切迫</p> <p>●インフラ老朽化(建設後50年以上経過施設 2013→2033)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路橋18%→67% ・河川(水門等)25%→64% ・港湾岸壁(水深-4.5m以深)8%→58% <p>・インフラを支える担い手の確保・育成</p>	<p>■首都圏のバックアップ機能を担える地域力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地勢的優位性、産業集積力、インフラ(東西国土軸、空港港湾)等 <p>■防災・減災に向けた産学官民の連携が始動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震対策中部圏戦略会議(129機関参加) ・東海ネーデルランド高潮洪水地域協議会(50機関参加) <p>■高い水防意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国でも盛んな水防団活動 ・【中部管内4県(岐阜、愛知、静岡、長野)に専任水防団組織有り/全国では9道府県】 	<p>■南海トラフ地震</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生確率30年以内7割 <p>■スーパー伊勢湾台風等大規模自然災害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本最大のゼロメートル地帯 ・頻発する土砂災害(南木曾、浜松森野町等)、御嶽山火山噴火 <p>■災害リスクエリアに住民の9割が居住</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部圏災害リスクエリア居住地面積比56%(全国35%) ・中部圏災害リスクエリア居住人口比90%(全国74%) <p>■太平洋沿岸に都市・生産機能が集積</p> <p>■国土レベルでの多重性・代替性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東西軸に比して脆弱な南北軸・環状軸 <p>■地域コミュニティを活かした減災対策が不可欠</p> <p>■道路交通安全対策が急務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県交通事故死者数ワースト1 ・中部5県死亡者数(2014)634人/全国4,113人
<p>●環境、エネルギー問題の深刻化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球規模での環境問題 ・食料、水、エネルギーの制約 ・自然環境の保全・再生 	<p>■水素社会(低炭素型社会)への先陣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FCV技術 <p>■環境、エネルギー問題等市民の関心の高まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014ESDユネスコ世界会議(あいち・なごや)開催 ・【環境、エネルギー・防災・生物多様性・気候変動・世界遺産(地域文化)・国際理解】 	<p>■気候変動に伴う洪水リスクの高まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業・農業など生産活動が盛んな木曾川流域(木曾川における平成以降の取水制限通算22回(概ね1回/年)) ・深刻な洪水被害地域のひとつ・愛知県東部地域(豊川水系:上水道8ヶ年以上/【最近30年間】の減断水制限実施(全国では5流域)) <p>■健全な水循環の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖性水域における水質改善の低迷 ・伊勢湾・三河湾の東京湾・大阪湾に比べ低いCOD環境基準達成度
<p>●国民の価値観の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルの多様化 ・コミュニティの弱体化 ・共同体における多様な主体の役割の拡大・多様化 ・安全安心に対する国民意識の高まり 	<p>■地域や人のつながり、地域コミュニティの強さ</p>	